

地域コミュニティの創造的再生をめざして（全体フロー図）

— 地域と住民一人ひとりの個性と多様性を生かして地域を元気にする

今なぜ地域コミュニティか

核家族化等による家庭の機能低下
居住する地域の外に職場を持つワーマン世帯の増加
量販店で買い物を済ませるなど消費スタイルの変化
集合住宅の増加など生活空間・都市構造の変化

地域のつながりの希薄化

従来地域が担ってきた課題解決により専門的な知識・技術が求められ、行政や専門家に委ねられることが増えてきたこと

地域での日常生活をめぐる課題

子どもが犠牲になる犯罪の予防、子育て家庭への支援、防災・減災対策、不当な取引行為に係る被害対策等、多様

地域コミュニティ運営上の課題

住民意識・関心の低下、地域コミュニティを支える人材不足、多様な主体の連携不足、組織基盤の脆弱化等
小規模集落、オールド・ニュータウン等多様

生活を豊かにする地域コミュニティ

地域で心の通う人間関係を育むことや、一人ひとりが身近な地域を舞台に個性や創造性を発揮しながら役割を担っていくことは、生活の豊かさの幅を広げる

期待される領域の拡大

地域コミュニティを基盤とした自立・自発的な取組の必要性

地域コミュニティレベルで課題や実情に即したきめ細かい対応
個性やエネルギー、多彩な視点等を生かした総合的な取組

地域コミュニティのあり方をあらためて考える必要

いかに生活し、どのような地域づくりを進めるか
住民が自ら意思決定し行動するコミュニティ等

地域コミュニティの再生に向けた基本的考え方

定義「個人、家庭など地域の構成員が、当事者として、主体的に、創意工夫のもと地域課題や共通の目標に取り組み、支え合い、生活を豊かにしていくための場とつながりである。」そこでは、「構成員が相互に多様性を尊重し、その活動は、参画と協働のプロセスを基本に、信頼や互酬性の規範（お互いに利益を与え合おうとする意識）を育むことを重視する。」

- 地域コミュニティを基盤にした地域課題解決の手法：地域が抱える課題は、地域によって事情が異なるとともに、様々な分野にわたっているため、身近な地域で合意形成しながら、地域の実情に応じて、総合的に取り組むことに意義がある等
- 地域コミュニティでの個人の役割：一人ひとりの価値観が尊重されるべきであり、個人は様々なコミュニティに属するが、地域に住んでいるということ自体によって役割と責任も生じる。
- 地域コミュニティの規模：フェイス・トゥ・フェイスの関係が成り立つ程度に小規模であること及び協働関係を構成する多様な人材、グループ、団体等が存在し効果的に活動できる規模を備えていることが要件である。
- 地域団体の活性化に向けた課題と地域コミュニティにおける役割：うまくいっていない地域は、目標の明確化や、様々な人が参加しやすい工夫、役割分担等の課題を抱えている。しかし、地域団体は、住民の意思に基づいて様々な活動を展開する主体として、地域社会の共同利益を実現するために不可欠であり、地域コミュニティ再生に重要な役割を果たす。
- 地域コミュニティにおけるNPO、専門家等の役割：地域内外のNPO、専門家等は、地域団体と協働し、それぞれの活動の幅を広げていくことができる。
- 団塊世代の大量退職と地域コミュニティ：団塊世代等勤労退職者が知識経験を生かしながら地域で活躍できるよう、支援することが重要である。

運営上の課題と地域の潜在力

＜諮問文で掲げられた地域コミュニティ運営上の課題

- 住民意識・関心の低下
- 地域コミュニティを支える人材不足
- 多様な主体の連携不足
- 組織運営基盤の脆弱化

構成員や資源の多様性を生かす視点

- 様々なテーマに関心を持ち活動する層も増加
地域密着型グループ、団体・NPO等
- 人材は埋もれており発掘する視点が必要
青少年、高齢者、団塊世代・勤労退職者等
- 多様な主体の参画・協働が広がりつつある
専門家、研究者、NPO、企業、行政等
- 様々な組織・運営のあり方が見られる
まちづくり協議会、様々なコミュニティデザイン等

本県では、県民交流広場事業や地域づくり活動応援（パワーアップ）事業等を通じて様々な取組事例が蓄積

地域コミュニティへの提案

1 参画・協働のプロセスから生まれる地域への愛着・誇りとつながり

- 地域の課題を提起し合い、共有する
ワークショップ、アンケート、マップづくり等の工夫
- 地域資源を見つけ、教え合う
自然・風景、歴史・伝承、ゆかりの人物、伝統芸能・祭り、特産物等を見つけ生かす
- タテ・ヨコの人間関係づくり
異世代間（タテ）・同世代間（ヨコ）の人間関係づくり、子どもの人格形成にも寄与
- 地域コミュニティの将来像の共有と、力強い活動の推進
将来像（ビジョン）を共有、実現に向けた活動

2 地域自治の仕組みづくり

- 合意形成・機能的な執行の仕組み
自治会、各種団体連絡協議会、まちづくり協議会などでの、部会制、ラウンドテーブル等組織づくりの工夫、ノウハウ継承の工夫、ルール・規約の整備等
- 担い手・資源の充実
一人ひとりの力を生かすために、様々な意見を引き出し、合意形成し、協働を提案し、その実現に向けて仕掛けていく能力養成、財源確保のための考え方や様々な工夫等
- 地域コミュニティの自己評価の仕組み
公平性・透明性、参画・協働の体制、合意形成やビジョン、拠点の状況等指標検討

3 地域への愛着と自治の仕組みを生かす、拠点・情報・ネットワーク

- 拠点：人と人をつなぐ機能を備えた「場」の機能充実が重要
- 情報：各種媒体を活用した積極的な情報収集・発信が重要
- ネットワーク：地域団体、NPO、大学・学校、企業との連携や地域間交流等

支援施策のあり方

◎県の役割：広域性、専門性、先導性、補完性を中心に、市町、中間支援組織等と連携
（例：広域的共通課題、広域的なネットワーク化支援、専門的課題、先導的取組の推進等）
行政の役割は、可能な業務から「官から民へ」業務を移行すべきである一方、地域コミュニティのあり方を様々な角度から検討し、必要に応じて施策を講じていく固有の役割もある。

提案1 地域課題に関する政策の企画立案、協働事業実施のネットワークづくり

- 地域団体やNPO役員、専門家、研究者、各種推進員、県・市町職員などの、地域課題解決に有用な情報や社会貢献意欲を持った人材がつながり、ともに協働事業等の政策の企画立案、協働事業実施につなぐ仕組みづくり
- 必要に応じ随時組織化・解散するチーム、IT（SNS等）とオフ会を併用した意見交換、意欲ある人材をマッチングする仕組み

提案2 県関係機関のコーディネート能力強化

- 市町における地域担当制、包括補助の導入等の進展にも対応し、地域の主体的取組や市町の施策に対して、県の広域性や専門性を生かして支援していくため、人材や資源をつないだり情報提供・相談を行うなどのコーディネート能力に関する研修の充実等
- 人材・資源のネットワーク化、情報収集・提供、相談、学習支援、合意形成支援等の基礎知識とノウハウ習得、地域担当制等の市町の取組支援チーム等

提案3 人材発掘・養成の取組と活動の支援

- まちづくり協議会等地域コミュニティの運営に役立つ学習機会の提供
- 地域の取組を支援する専門家・アドバイザーの紹介・派遣制度の充実

提案4 情報受発信・ネットワーク化支援施策が相乗効果を発揮する仕組み

- 地域コミュニティの活動や運営の参考となるよう、モデルとなる活動事例や地域コミュニティの運営ノウハウ等の情報を得ることができる情報収集・発信支援の充実
- 「コラボネット」、「ひょうごインターキャンパス」、SNS「ひよこむ」などのほか、分野別の様々なリーダーバンク、人材登録制度を相互に利用できるよう相互接続推進

提案5 地域コミュニティ支援施策の継続的評価

- 地域の発意と主体性、創造性を引き出すための施策展開に向け、施策を評価・見直し
- 評価・見直しの視点は、自立尊重、段階性、双方向性、提案性等地域課題の解決や、地域文化を創造する力を強化する要素を重視